

「瓦版」



2025. October. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

No.24

仙台二華高校の課題研究

～北上川／東北地方、メコン川／東南アジアをフィールドとした
世界の水問題解決のための取り組み～

宮城県仙台二華高等学校
教諭 地主 修

仙台二華高校で行っているカンボジアにおける課題研究の活動内容をシリーズでご紹介しております。

仙台二華高校では、毎年8月（雨季）と12月（乾季）の2回、メコン川フィールドワーク（以下 FW）と称して約2週間、メコン川流域の東南アジアを訪問しています（うちカンボジアには約1週間滞在）。仙台二華高校の課題研究では、「高校生による本気の国際支援」を目指して、住民と一緒に水問題の解決に奔走しています。課題研究のグループはシエムリアップを対象としているものだけでも雨水、バイオトイレ、水質、教育・エコ容器の4グループがあり、FWに参加した生徒は宇宙飛行士さながら、他のグループから依頼された調査を次々にこなしていきます。

第5回・第6回は、2年前にメコン川FWに参加した生徒が、卒業後海外大学入学までのギャップイヤーでカンボジアに滞在した約3か月の奮闘記を本人に書いていただきます。

仙台二華高校 OG の高橋怜楽と申します。

高校時代の FW でカンボジアの空気に、歴史に、そして人々の穏やかな優しさに惚れました。そこで、2025年6月から8月までの3ヶ月間、村の学校の先生としてインターンをしながらカンボジアライフを満喫した軌跡を綴りたいと思います。

～村の様子～



コケッコッコの鳴き声で身を覚まし、1日が始まります。ホームステイ先のおばあちゃんが食事を作ってくれます。「プラホック(カンボジアの発酵食品)が好き」と伝えたら、なんと初日の夕食に出してくれました！海外出身でプラホックが好きな人はあまりいないらしいので、好きだと伝えるとカンボジアの人はとても喜んでくれます。「くによむ ちょーるちゃっと プラホック」ぜひ覚えていってください。村の人たちは、いわゆる市場、露店のようなところで食材を買います。シエムリアップの市内にも、地元の人が使う大きな市場があります。個人的には「東南アジアの日常」を感じられる大好きなスポットです。ぜひ訪れてみてください。



また、カンボジアの人は、すれ違う時に目が合うと微笑んでくれます。にこっと。それはそれは親愛が感じられる笑顔で。名前も知らないけれど、道でいつもすれ違い、微笑み合うすてきなひとときがあります。のどかななあと思って道を眺めていると、明らかに私より年下の子供が一丁前にバイクを運転している光景に出会います。カンボジアでは、15歳以上は125cc以下なら免許なしでバイクに乗ることができます。一台に何人も乗ってることも多いです。私が見た中では、一台6人乗り(大人2人子供4人)が最高記録でした。



車じゃないです、バイクです。他にも、今にも積み荷が落ちそうなのになぜか落ちない三輪車や、はではでなトゥクトゥクなど、思わず振り返ってしまう面白いものが行き来しています。

一日の終わりは美しい夕日です。カンボジアの夕日はとても綺麗です。特に何も遮るものがない田舎では、黄金の光景が広がります。カンボジアにいらした際には、ぜひ美しい夕日を眺めてみてください。



～小学校の様子～

カンボジアの子供達は(特にシェムリアップは)とてもフレンドリーです。

「teacher!」と笑顔で挨拶してくれたり手を振ったりしてくれます。そしてとても礼儀正しい。教室に入るときは必ず合掌したり、先生の前を横切るときはかがんだりします。学校には日本のようなチャイムがありません。(ついでに時間がある時計もありません)ではどうするかというと、金属でできた鐘みたいなものを担当の生徒が鳴らします。当然のごとく授業時間は日々ずれます。あまりにもならないときには自分で鳴らしに行きます(笑)

学校にはたくさんの生徒さんがいます。一方で、ポルボト時代の知識人虐殺の影響が今日まで及んでおり、先生の手数は少ないです。私自身も、一クラス 50 人超を担当していました。塾に通える子、家庭が教育に熱心な子、働きながら学校に通う子、親が出稼ぎに行っていて全く家に帰ってこない子、と状況もさまざま、クラスの中でも教育格差が顕著です。英語を話さない小学校の先生と、コミュニケーションをとりながら、レベルがバラバラな生徒に向けて英語の授業を作っていく…日々奮闘でした。それでも、先生方と他愛のない話をして笑い合ったり、子供達と一緒に遊んだりするうちに人間関係をつくっていきことができました。カンボジアの教育インフラはまだ途上段階です。しかし現場では、日々、若い先生たちと生徒たちが奮闘しています。そのような人々と関わると、若い国であるカンボジアのエネルギーを感じます。

～そして都市での暮らしへ～

先ほどから「やさしい」という言葉を多用していますが、やさしいのは人だけと言っても過言ではありません(笑)。その他(水、虫、犬、交通)に振り回された日々の最たるものが、腸チ



フス感染です。日本だとレアな病気です。まさにカンボジアにきたからこそできる経験でした…すごく痛かった…。ただ、人間環境に適応していくもので、水も虫も犬も対策方法を身に付けていきます。腸チフスもなったおかげ?でまたたくさんの人と出会えたので今となっては良い経験です。

日本がサポートしている病院に1週間入院し、無事退院しました。退院後は、自分の体調の回復をはかるためにシェムリアップ市内のゲストハウスに泊まりながら、学校に通うことにしました。図らずも、シェムリアップの農村と町のどちらの生活も満喫することができたので、次の瓦版ではシェムリアップ都市での暮らしを中心にご紹介したいと思います。

みちのく

陸奥あれこれ・・・ 大館曲げわっぱ

秋田県が誇る経済大臣指定伝統的工芸品の 1 つ、大館曲げわっぱ。国が唯一認めた曲げ物です。歴史は古く、約 2000 年の歴史があります。その昔、佐竹藩主が下級武士の内職として推奨し、産業としても盛んになりました。

曲げわっぱの良さは、なんと言ってもご飯が美味しくなります。余計な水分を調整し、抗菌効果があり、冷えたご飯もごちそうになるのです。昔から続く理にかなった道具として現代まで受け継がれてきました。



曲げわっぱ工房 E08 仲澤 恵梨です。昨今、職人の担い手不足が懸念されている中、私は 2022 年に女性初、大館曲げわっぱで独立しました。

皆さんは伝統工芸士にどのようにしてなるかご存じですか？実務経験が 12 年以上、そこから組合の許可を得て国家試験が行われます。実技と、筆記の試験を合格して、ようやく伝統工芸士として認められます。私の前に女性の初めての工芸士が誕生し、やはり女性もこの業界で頑張れることを証明された事に続き、自分も 2016 年に当時最年少で伝統工芸士に合格しました。今、工房には同じく伝統工芸士の女性職人が働いてくれています。同じ女性の職人がこれからも増え、また若手の職人が私の活動を見て、同じように希望をもって大館の伝統工芸を盛り上げてくれる様に架け橋となり、これからも寄り添える職人であり続けられたらとおもっています。

今まで無かった製品開発への取り組みをし、今後の大館曲げわっぱの飛躍を願い日々奮闘しております。今までの男性職人とは違った視点で、女性に受け入れられやすいかわいらしい曲げわっぱを製作。デザインを含め、新たな商品を、現代へも溶け込めるような曲げわっぱをめざして作成しております。

中でも曲げわっぱアクセサリーは E08 の代表作。また、若手の作り手との垣根を超えた製品開発へも取り組んでおります。皆様の心が、少しでも豊かになれるようなモノ造りをし、生活に彩りをさえられるような製品造りを今後も目指して参ります。ホームページで作品をご覧になれますので、下記の QR コードからアクセスしてみてください。

皆様との出会いを楽しみにしています。



曲げわっぱ工房 E08 (いーわっぱ)

〒018-5751

秋田県大館市二井田字村下 165-2

TEL0186-99-0505

